A 15　高齢者の生活実態に関する調査の分析　(第3報)

——有識者のとらえた諸問題——

筑紫女学園短大　小川直樹

目的　これまで高齢者の生活実態を解明するために、現時点での生きがいや幸福感を現在の生活のあり方と関連させて捉えた、いわば時間の横軸に相当する調査と、生活史の考察を通した時間の縦軸に相当する調査とを実施し、その分析・報告を終えた。

本報では、高齢者問題にかかわりをもつ、いわゆる有識者を対象にして、主として高齢者の生活要求するところのものとその充足に対して、現行の諸制度が十分な機能を果しているか、および問題点を明らかにすることを目的として、アンケート調査を実施した。

方法　調査地区—福岡市および近郊地区，北九州市，佐世保市の三地区。職務・役名—老人クラブ役員，民生委員，施設長，施設生活指導員，ケースワーカー，ホームヘルパー寮母，看護婦，保健婦，職員。性別—男性238，女性191，合計429。

結果　(1) 有識者は、高齢者にとって本人の健康は最も重要であり、これは配偶者の健康や経済的なことがらよりも、はるかに重要であるととらえている。高齢者のかかえる健康上の諸問題に対応するためには、本人の健康への配慮を基礎にし、あわせて対人的な交流にたとえば子・孫との交流や親しい友人・知人がいることを介在させた施策が求められる

(2) 経済について。高齢者にとって経済的なことがらは、健康や家族関係のあり方ほど重要な問題ではないととらえている。しかし、この意見は相対的な問題であるとも言えよう。それは有識者が、高齢者にとって家族との交流を保つためや同居をよりよく保つためには、おたがいに精神的にも独立して生活を営みうる程度の経済状態が望ましいとも考えているからである。